

令和 3 年度 第 3 回丸亀城石垣崩落対策本部会議録

1 開催日時 令和 3 年 7 月 1 9 日（月）午前 1 0 時 0 0 分～午前 1 0 時 3 0 分

2 開催場所 4 階 特別会議室

3 議 事

(1)令和 3 年度 第 3 回丸亀城石垣復旧専門部会について

①文化財調査の成果について<報告>…資料 1

- ・地中部の石垣解体から明らかとなった石垣構造を中心に報告する。三の丸坤櫓北西隅角部は角石に割れが集中しており、BC 角 29 の段からは鉤加工や胴木等特徴的な加工が確認され、江戸時代の積み直し時における最下段であることがわかった。
- ・G 面（帯曲輪北側石垣）は、A 面（三の丸西面）まで延びており、帯曲輪が北方向に拡張されたことがわかった。

②三の丸・帯曲輪西面石垣の解体範囲について<報告>…資料 2

- ・復旧工事における石垣の解体範囲は専門部会に諮り作業を進めている。地中部解体範囲については未露出であったために判断材料が不足し、暫定的な線引きを行い未確定のままであったが、書面会議を経て追加解体範囲を決定し、解体を進めてきた。解体範囲に含まれていながら、残置できた石材、委員の内諾を前提に現場判断で追加解体した石材は資料のとおり。

③石垣復旧の基礎について<報告>…資料 3

- ・復旧時の石垣をどこから積み始めるのかは重要な課題となっており、今後の調査の進め方と、復旧石垣の基礎、工法の決定は事業全体の重要事項であり、専門部会で議論を深めていくこととしている。

④グラウンドアンカーのリフトオフ試験と再緊張に関する報告…資料 4

- ・5 月末に終了した三の丸斜面安定化工事において、現在、三の丸に 47 本のグラウンドアンカーが打設されている。そのうちの 8 箇所に荷重計を設置し、工事期間中適正な引張力が発揮できているかどうか、残存引張力を計測しながら安全管理に努めている。
- ・工事を進めている中で、2 箇所の荷重計において、残存引張力の低下率が一次管理値 20%を超過したため、その周辺の 14 本のアンカーについてリフトオフ試験（残

存引張力を計測する調査）を実施し、その結果、10%以上の低下率となった13本のアンカーについて再緊張を実施した。

- ・グラウンドアンカーの残存引張力の低下理由は、本現場が盛土であることから、地山のクリープ、または、アンカーの近接施工が大きな要因として考えられる。
- ・今後の作業方針について、今後もアンカーの残存引張力の低下の可能性があるため、現在作業中の帯曲輪においても、荷重計による残存引張力を計測し、安全管理に留意しながら施工を進めていく。

⑤令和3年 丸亀城石垣崩落復旧整備事業工程表…資料5

- ・「三の丸斜面安定等（その2）工事」は6月末に完成しており、現在施工中の「帯曲輪石垣解体等工事」を年度内に完成させる予定としている。
- ・後続の工事である「帯曲輪石垣復旧工事」については、年度内の契約を目指す。
- ・「帯曲輪石垣復旧工事」完成後、直ちに上段の三の丸石垣復旧工事に着手できるよう、「三の丸石垣復旧実施設計業務委託」を既に7月初めに契約しており、年度内に完了させる予定としている。

→「①文化財調査の成果について」で、胴木の話があったがこの意味は。（副市長）

- ・胴木は江戸時代の崩落後の積み直しの際に築石の安定のために設置したと考えられる。（文化財保存活用課長）

→胴木についても、復旧の際に再設置をするのか。（副市長）

- ・丸亀城石垣復旧専門部会に諮り決定する。（文化財保存活用課長）

→「④グラウンドアンカーのリフトオフ試験と再緊張に関する報告」で、「グラウンドアンカーの残存緊張力の低下により、再緊張が必要となっている」との説明を受けたが、これは当初想定のうちか。また、今後も同様のことがあるか、問題はないか。（モーターボート競走事業管理者）

- ・グラウンドアンカーの残存緊張力の低下は想定していたことから、荷重計を設置し残存緊張力の計測をしていた。今後も、継続して計測し必要な際には再緊張を行いながら作業の安全性を確保していく。（文化財保存活用課丸亀城管理室総括担当長）

- ・「③石垣復旧の基礎について」で説明した、「復旧時の石垣をどこから積み始めるのか」は、事業の大きな節目となっており、今後の解体範囲にも影響するなど、重要な判断となるため、次回の専門部会で委員の意見をいただくこととしている。（教育部長）

4 出席状況

(1) 本部構成者（第3条）

職	氏 名	出欠
市 長	松 永 恭 二	○
副 市 長	横 田 拓 也	○
教 育 長	金 丸 眞 明	○
モーターボート 競走事業管理者	大 林 諭	○
市 長 公 室 長	山 地 幸 夫	○
総 務 部 長	栗 山 佳 子	○
健康福祉部長	宮 本 克 之	○
市民生活部長	小 山 隆 史	○
都市整備部長	吉 本 博 之	○
産業文化部長	林 裕 司	○
ボートレース 事 業 局 次 長	福 本 泰 幸	○
教 育 部 長	七 座 武 史	○
消 防 長	田 中 道 久	○
議会事務局長	渡 辺 研 介	○

(2) 関係職員

市長公室職員課長	徳 田 寛
市長公室秘書政策課長	窪 田 徹 也
市長公室秘書政策課副課長	谷 本 智 子
市長公室秘書政策課政策推進担当長	宇 野 大志郎
総務部財政課長	宮 西 浩 二

(3) 事務局

教育部文化財保存活用課長	東 信 男
教育部文化財保存活用課副課長（丸亀城管理室長）	松 江 康 司
教育部文化財保存活用課丸亀城管理室総括担当長	阪 本 晃 弘
教育部文化財保存活用課丸亀城管理室副主任	高 島 雄 基